能州本宮隣峠薬王山東光寺の
霊場に扶桑第一の温泉あり薬師
如来の佛体ハ湯のなかより自然と
出現ありいまへハ此嶽の中より温泉
涌出しあり御嶽よその痕あり根主
日光月光十二神将ハ弘法大師の御作
なり此温泉ハ往古小栗判官といふ人
毒酒に傷られこの温泉に浴す一旦職を
萬病快癒病抜ミろう力を試さんとて
王のことさかんに大石へ心あく壓ぬ
それなりこの石を小栗のちからいしと
称又小栗温泉浴の眉藁葉まで
髪を束ね葉をなべを棄し而今に到る
まで毎年自然と稲を生ずれども不投
の稲と号く湯の上より水の方に二十
たくら道のかたらふあり今まず
の稲とちかうみを図して法人に
利めものなり

まくすのいね

小栗ちからいし